

令和6年第9回産業建設常任委員会 要点記録

開閉会日時		令和6年11月20日（水曜日）		開会	10:00	会議場所		別海町議会 委員会室4		
				閉会	11:20					
委員の出欠		4 番	伊勢 徹	欠席	5 番	貞宗 拓雄	出席	7 番	横田 保江	出席
		11 番	今西 和雄	出席	12 番	松原 政勝	出席			
出席説明員	産業振興部	産業振興部長		産業振興部次長		農政課長		商工観光課長		
		佐々木栄典	出席	小野 武史	出席	皆川 学	出席	掘込 美穂	出席	
		水産みどり課技術主幹		商工観光課主幹		農政課主査		農政課主査		
		古里 達也	欠席	上杉 大洋	出席	金澤 亮太	欠席	山下 真弘	欠席	
		農政課主査		水産みどり課主査		水産みどり課主査		商工観光課主査		
		西郷 博之	欠席	岩光 信幸	出席	池田 友和	欠席	松本 芳樹	欠席	
	建設水道部	建設水道部長		建設水道部次長		建設水道部次長		建築住宅課長		
		外石 昭博	出席	新堀 光行	出席	田畑 直樹	出席	廣島 静治	出席	
		事業課長		上下水道課技術長		管理課主幹		建築住宅課主幹		
		佐竹 和仁	出席	袴田 充輝	欠席	入田 浩明	欠席	篠田 敬介	欠席	
		事業課主幹		事業課主幹		上下水道課主幹		上下水道課主幹		
		前道 陽司	欠席	板垣 正博	欠席	西田 和弘	出席	植松 拓也	出席	
		管理課主査		建築住宅課主査		建築住宅課主査				
		大滝 毅	欠席	伊井 崇史	欠席	志渡 正勝	欠席			
	農業委員会	農業委員会事務局長		農業委員会主幹		農業委員会主幹				
		川畑 智明	欠席	大山 晋作	欠席	成瀬 広子	欠席			
委員外の出席								合計	0名	
事務局職員		局長 干場 富夫						合計	1名	
傍聴者数		議員 0名		報道関係者		0名		合計	0名	

令和6年第9回産業建設常任委員会 要点記録

会議に付した事件及び会議結果など

発言者	会議経過 ※所管毎に議事を行う事情等により議事番号が前後することがある。
委員長 11番 今西	10:00 開会
	出席委員4名、欠席委員1名、委員外0名、会期1日 【産業振興部所管事務調査】
委員長 11番 今西	委員長挨拶
産業振興部長 佐々木	挨拶
委員長 11番 今西	議事1 所管事務調査について
	(1) 秋サケ漁業持続化支援等について
水産みどり課主査 岩光	別紙資料に基づき説明 ・漁獲量対前年比81%の1,478トン、漁獲金額は対前年比119%の14億6,130万円となったが、依然として低水準である。 根室管内さけ・ます増殖事業協会（以下「増協」）も運営が厳しく、令和4年度から3年間、負担金を6.8%から1.2%増加させ、8%とすると決定。漁業者の負担が増加している。 漁家経営については、令和2年度からの長引く不漁の影響により、年々厳しさを増しており、漁獲数量は依然として回復しない状況下にあることから、今後も後続資源の確保・増大に資する取組ができるよう継続した支援を実施する必要がある。
委員長 11番 今西	質疑
委員 12番 松原	・野付半島の南部では操業期間の始まりと終わりに20日間の自主規制を行っている漁場や漁家がある。 次年度からでもいいので、そういった個々の漁獲量等を加味した補助額にしてもらいたい。漁獲金額が少ないところには支援を手厚くする必要があるし、採算が取れているところと一律の割合でなくてもいいのではないかと。
産業振興部次長 小野	・令和6年度は増協負担金増加分である1.2%相当額の補助を行っているが、基の6.8%分についても考えなければならないと思っている。 自主規制が行われていることは承知しており、漁業者が苦労されていることは重々承知しているが、増協負担額に対する軽減策としていることから、個々の漁獲金額に対して割合を設定して補助することは難しい側面もあるが、今後、そういった意見も参考にしながら支援内容をしっかり検討する必要があると考えている。
委員 12番 松原	・数字は把握できるので、3,000万円以下の漁獲金額のところは10万円、20万円の負担金支払いも大変なことから、段階を設けて補助することも今後は考えていく必要があると思う。
産業振興部次長 小野	・個々の漁獲金額に対する負担率であるため、例えば売上が1,000万円の漁家と売上が100万円の漁家では、そもそも増協負担額に差がある。 そういった部分を加味した場合、段階を設けるにしてもどこに線を引くか非常に難しい。 町としては、あくまでも資源増大に対する支援という側面があることから、その部分も考慮した上で、どういった支援がいいのか関係機関と協議しながら考えていきたい。
委員 12番 松原	・別海町は南部と北部に分かれているが、南部は資源が少なく自主規制をして努力している。 その点は資源増大といった点からやはり加味していただきたいがどうか。
産業振興部次長 小野	・確かにそうであり、そういったことから、これまでも町として別海漁協に対し何ができるかということで、資源確保のための施設の整備など、別途補助を行ってきた経緯もある。 この事業に関してだけで考えるのではなく、資源増大のために何ができるかを広く総体的に考えていきたい。
産業振興部長 佐々木	・不漁対策として何ができるかを考えた場合、まずは資源の増大を行うこと、そのために

令和6年第9回産業建設常任委員会 要点記録

		は増協事業の推進が必要となり、増協事業の推進・継続のためには負担金を上げる必要がある。 その上で負担増となる部分を町として支援するという流れであることを御理解いただきたい。
委員長	11番 今西	・冒頭の説明から、今年度当初計画している支援のほかに、さらなる支援を行うといった意味に取れる説明があったが、どうなるか。
産業振興部次長	小野	・野付、別海両漁協から増協負担金について、1.2%分のみではなく、6.8%分についても支援してほしい旨の共同要請書が提出されている。 この状況を鑑み、6.8%分についても昨年同様かそれ以上の支援が必要ではないかと考えているところ。
委員長	11番 今西	・両漁協からの意見を集約し、町としての対応を吟味しながら事業の決定や予算要求を行っているものと思うが、どうか。
産業振興部次長	小野	・先ほども話したが、両漁協から要請書が提出されており、漁協の意見の先には組合員もいるので、そういったこともしっかり踏まえて進めている。 個別の漁業者への対応はなかなか難しいが、窓口となる漁協と話を進めることで対応していきたいと思っている。
委員長	11番 今西	(2) 北方資源増大対策事業について
水産みどり課主査	岩光	別紙資料に基づき説明 ・ホタテ稚貝種苗移植事業は、稚貝放流による資源増大及び漁獲量の安定を図る事業。 アサリ漁場耕うん事業は、劣化した底地を耕うんして生息環境を改善する事業。 アサリ種苗移植事業は、稚貝発生密度の高い漁場から生育環境が良好な漁場に移植して資源増大を図る事業。 ホッキ貝漁場耕うん事業は、噴流式桁網により耕うんし生息環境を改善する事業。 ホッキ貝種苗移植事業は、噴流式桁網で稚貝を採取し、生息環境が良好な漁場に放流する事業。 北方風蓮湖外敵駆除事業は、モクズガニの駆除を行う事業。
委員長	11番 今西	質疑
委員	12番 松原	・去年、高温によりアサリが死んだと聞いたが、回復の見通しはあるか。
水産みどり課主査	岩光	・猛暑で水深の浅いエリアでアサリのへい死が発生した。今年度は猛暑がなかったので回復傾向にあると報告を受けている。 漁協も放流時期を春にずらすなど猛暑対策の工夫をしている。
委員	12番 松原	・今年の漁獲量は結構あったということか。
水産みどり課主査	岩光	・昨年度、出荷サイズのアサリが多くへい死したことから今年度の漁獲量は減少している。 ただし、後続資源については確保されているので来年度以降は回復していくものとみている。
委員長	11番 今西	・ほとんどが野付漁協の漁場に関する事業だが、別海漁協はこれらの漁場を持っていないということか。
水産みどり課主査	岩光	・過去に別海漁協でも同じような事業を行っていたが、資源量の減少や人員不足により休止している状況。
委員長	11番 今西	・モクズガニの駆除事業はずっと続いているが、減ってきているのか。
水産みどり課主査	岩光	・令和2年の駆除量が1番多く、253トンほど、令和3年は141トン、令和4年は56トン、令和5年は45トンと年々駆除量が減ってきているので、生息数は減っていると考えられる。
委員	12番 松原	・モクズガニが減ってワカサギが増えた。因果関係があるかはわからないが、続けていってほしい。

令和6年第9回産業建設常任委員会 要点記録

委員長 11番 今西
水産みどり課主査 岩光

(3) 水産系副産物再資源化施設の運営について

別紙資料に基づき説明

・副産物について、令和3年度から5年度まで1,595トン焼却処分した。令和6年度は焼却200トン、資源化処分1,200トンとなる予定。

保管量は当初3,901トンと見込んでいたが、実際には5,445トンと推定される。

D棟跡の堆積物に雨水などの水分が影響し、重量が増加したものと考えられる。

また、重量増加に加え、堆積物の内部にガスが発生しており、慎重を期するため、令和7年度の処分終了予定を1年延長し、令和8年度の処分完了としたい。

委員長 11番 今西

質疑

委員長 11番 今西

・堆積物の比重測定を行った経緯は。

水産みどり課主査 岩光

・次年度以降の処分量を算定するために実測したもの。

委員長 11番 今西

・今のD棟跡のような野ざらしの堆積状態で、さらに重量が増加することはないのか。

産業振興部次長 小野

・重量増加とガスの発生により1年処分期間が延びてしまったことは恐縮であるが、この分は期限内にしっかり処分する。

全て処分した後は、今のような状況が2度と起こらないような管理をしていくので、今後屋外に堆積することはないようにする。

委員長 11番 今西

・ということは、令和8年度までは、現在の野ざらしの状況のまま対応していくということになるのか。

水産みどり課主査 岩光

・B棟が空になった段階で、外から移すことも考えたが、ガスが発生しており移動に危険が伴うことから、現状のまますみやかに処分していくこととしている。

また、発生ガスについては中和剤を散布しながら安全に作業を行う。

委員長 11番 今西

・今回のこともそうだが、予期せぬ事態が起きた場合の対応は、全て町の責任として行うことになっているのか。

産業振興部次長 小野

・業務委託の仕様では仕掛け品を適切に処分することになっており、事故に注意して作業することになっており、実際に事故が起こった場合は責任分担の話になるが、町の施設であることから、町は全く関係ないということにはならない。

想定できるような事故は未然に防ぐ対策、対応を業者にしてもらうよう、しっかり考えながら、連携して進めていきたいと考えている。

委員長 11番 今西

・処理期間が1年延長されたが、必ずきれいに処理するということで、再確認したい。

産業振興部次長 小野

・現地を確認していただいてわかると思うが、きれいにしないといけない。

きれいにして施設を使えるような状態に戻す必要があるので、しっかり取り組んでいきたい。

委員長 11番 今西

・環境汚染のおそれがあるような管理方法は大きな課題となると思うので、そのことを十分に受け止めて管理していただきたい。

産業振興部次長 小野

・今現在法に抵触しているかどうかは別にして、いずれにしても法に抵触するような管理は当然よくないので、町としてはそのようなことにならないようしっかり指導して、改善できるところがあれば改善していきたい。

委員長 11番 今西

10:38 産業振興部終了 休憩

委員長 11番 今西

10:45再開

【建設水道部所管事務調査】

委員長 11番 今西

委員長挨拶

建設水道部長 外石

挨拶

委員長 11番 今西

議事1 所管事務調査について

上下水道課主幹 植松

(4) 上下水道事業の経営等について

別紙資料に基づき説明

・応急給水や応急復旧などの応急対策を迅速かつ的確に実行できるよう別海町地域

令和6年第9回産業建設常任委員会 要点記録

		防災計画及び別海町業務継続計画を上位計画とし、厚生労働省制定の危機管理対策マニュアル策定指針に基づき別海町緊急時対策マニュアルを策定している。
委員長	11番 今西	質疑
委員	12番 松原	・どのくらいの震度まで持ちこたえられるか数字として抑えているか。
建設水道部長	外石	・新しく埋設している管渠は最大震度7に耐えるが、それ以外は震度7の耐震性はないと考える。
委員	12番 松原	・間が折れたとか、抜けたといった場合、すぐ分かるのか。
建設水道部長	外石	・水に関しては、各配水池に流量計があり、水量の変化で漏水が発生していることは分かるが、具体的な場所は現地を確認しながら探すことになる。
委員	12番 松原	・給水体験をやったと説明があったが、各地域の消火栓を使って実施したのか。
上下水道課主幹	西田	・役場の給水栓からタンクに溜めて現地に運んで実施した。
委員	5番 貞宗	・各種団体と契約をしているようだが、基幹産業である酪農への対応として、農協とはどのような対策を協議しているか。
建設水道部長	外石	・産業振興部で協議を行って進めていると聞いている。
委員	5番 貞宗	・水対策であっても農業用の場合は所管部署が変わるのか。
建設水道部長	外石	・酪農関係としては、主に家庭用水、営農用水、肥培かんがい用水の3種類があるが、水道事業では、災害時には飲用水を最優先して対策に当てる必要があることから、復旧と、市街地への応急給水を行う。そういったことから、農業関係用水対策については、基本的に産業振興部で考える。
委員	5番 貞宗	・そういったことは承知していなかった。重大な問題なので今後産業の調査で進めていければと思う。
委員長	11番 今西	・対策マニュアルの中には冬期の対応は含まれていないように思えたが、冬期の発災時はどうなるか。
建設水道部長	外石	・基本的には冬期も復旧方法は変わらない。ただ、積雪があるので漏水箇所の特定が夏場よりは難しいといったことはある。
委員長	11番 今西	・冬期の対策を特別計画する必要はないと受け取っていいか。
建設水道部長	外石	・夏冬で対応を変えることは考えていないが、先ほど言ったとおり、冬期間は復旧に時間はかかることになる。
委員	12番 松原	・大きな災害時には復旧に数日を要する。災害対応用の井戸を各市街地に掘る考えはないか。過去の災害時に走古丹で、飲み水にはできなかったが、井戸が役に立った経験がある。
建設水道部長	外石	どこかの自治体で災害用井戸を掘る計画があると聞いたことがあるが調べたことはないか。
		・調べたことはなく、災害用の井戸を掘るということは考えていなかった。
		大規模な地震があった場合、施設が損傷を受けることは免れないと考えることから、現状の計画において、全国の事業体間で支援体制が整っているので、そこを頼りに復旧を進めていきたいと考えている。
委員	12番 松原	・井戸があれば農業用水対策にも消火活動にも使えると思うのだが。
建設水道部長	外石	・実際できるかどうかはわからないが、一つの方法として考えられると思うので、関係機関と調整するような機会があれば提案してみたい。
委員	5番 貞宗	・釧路沖地震の際に、自家用井戸が役に立った記憶があり、有効な案の一つとして考えられるので、検討する必要があると思う。
建設水道部長	外石	・井戸は有効だと感じている。上春別地区の農家で井戸を掘ったという話も聞いたことがあるので、今後考えていきたい。
委員長	11番 今西	閉会挨拶
委員長	11番 今西	11:20 閉会